

令和7年度

教育功勞者功績概要

千葉県教育委員会

1 教育行政の部

前富里市教育委員会教育長 吉 野 光 好

令和2年、富里市教育委員会教育長に就任し、5年間務めた。卓越した見識と豊富な経験を活かし、富里市の学校教育、教育環境の整備に尽力した。市内全小中学校にコミュニティ・スクールの導入や、一人一台のタブレット端末の導入、学校体育館への空調設備整備など、学校教育・教育環境の充実に努めるとともに、生涯学習や文化振興にも広く貢献した。この間、地方教育行政の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

野田市教育委員会委員 永 瀬 大

平成26年、野田市教育委員会委員に就任し、現在に至る。医師としての豊富な経験と卓越した見解を生かし、学校医としても学校保健及び学校安全の普及と向上に尽力した。また、学校の校舎や体育館の耐震改修及び老朽化対策、空調設備の設置、トイレの洋式化など野田市の教育環境の整備に適切な助言、指導を与えた。この間、地方教育行政の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

元印西市教育委員会委員 寺 田 充 良

平成25年、印西市教育委員会委員に就任し、12年間務め、その間、教育長職務代理者を2年8か月にわたり務めた。委員就任前より中学校同窓会長を務めるなど地域貢献に尽力した。その卓越した見識と豊富な経験を生かし、地域の歴史文化の保護や次世代継承、学校規模により生じる教育指導上及び学校運営上の問題解消や、過大規模校対策として義務教育学校新設基本計画の策定など、印西市の教育環境の充実に対し適切な指導・助言を与えた。この間、地方教育行政の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

元富里市教育委員会委員 會 田 直 子

平成25年、富里市教育委員会委員に就任し、12年間務め、その間、教育長職務代理者を3年6か月にわたり務めた。保護者委員としての視点から、子育て世代の実態を的確に把握し、富里市の教育行政への反映に努めるとともに、ICT教育を推進するためのタブレット端末の導入など、富里市の教育環境の整備に適切な助言・指導を与えた。この間、地方教育行政の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

栄町教育委員会委員 中 島 宣 行

平成25年、栄町教育委員会委員に就任し、平成30年からは教育長職務代理者を務め、現在に至る。この間、屋外運動場整備や、教室及び特別教室、体育館への空調設備設置に尽力するなど、適切な教育環境への指導・助言を与えた。また、オリンピックを招いたスポーツフェスタや町のマラソン大会での順天堂大学生の協力等、地方教育行政の振興にも力を注ぎ、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

匝瑳市教育委員会委員 大 木 睦 子

平成 26 年、匝瑳市教育委員会委員に就任し、現在に至る。その間、平成 26 年から委員長を 2 年間務めた。卓越した見識と柔軟な発想、学校長としての豊かな経験を生かし、学校の空調設置や感染症対応等について適切な指導・助言を与え、また、生涯学習や文化振興にも広く貢献した。この間、地方教育行政の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

元九十九里町教育委員会委員 川 崎 修

平成 25 年、九十九里町教育委員会委員に就任し、12 年間務めた。同町の教育課題の一つである児童生徒の長期欠席者対策に強い使命感をもって積極的に参画し、教育委員会会議等で児童生徒一人一人の状況に耳を傾け、解決に向けた意見を述べた。また、町内小中学校へのコミュニティ・スクール導入に尽力し、地域と学校が支え合う関係作りに努めた。この間、地方教育行政の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

鴨川市教育委員会委員 石 井 千 枝

平成 26 年、鴨川市教育委員会委員に就任し、平成 30 年からは教育長職務代理者を務め、現在に至る。卓越した見識と豊富な経験を生かして、一人一人の健やかな成長と豊かに生きる力を身につけることのできる一貫した教育、子供たちがいきいきと活動する学校づくりのために鴨川市学力向上プランを推進し、学習活動の工夫や授業改善に努めた。また、教員の意識改革や指導力向上への適切な指導・助言を与えるとともに、学校施設のバリアフリー化など、学校教育環境の整備充実を図った。この間、地方教育行政の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

鴨川市教育委員会委員 吉 原 里 夏

平成 26 年、鴨川市教育委員会委員に就任し、現在に至る。子供と家庭を支える環境が変化している中で誰もが安心して学ぶことができる環境づくりを進めるため、保護者としての視点や豊富な経験を活かした子育て家庭の支援、教育支援センターの開設や特別支援教育支援員の配置など、一人一人の教育ニーズに応じた特別支援教育を推進した。また、児童生徒が安全に通学できるように、交通安全教室の充実や関係機関と連携して通学路の安全性の向上に尽力した。この間、地方教育行政の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

元南房総市教育委員会委員 小 宮 忠

平成 25 年、南房総市教育委員会委員に就任し、12 年間務めた。この間、委員長職務代理者を 1 年間、委員長を 4 年間、教育長職務代理者を 7 年にわたり務めた。教員としての豊富な知識と経験をもって課題に取り組み、特に少子化による学校統合と環境整備においては、地域や学校とともに考え、改善策を積極的に提案するなど、教育環境の整備に尽力した。この間、地方教育行政の振興に尽力し、本県教育の推進に寄与した功績は大である。

袖ヶ浦市教育委員会委員 中 村 伸 子

平成 25 年 12 月に袖ヶ浦市教育委員会委員に就任し、令和 6 年 1 月から教育長職務代理者を務め、現在に至る。袖ヶ浦市読書指導員及び大学等の教育機関講師として長年にわたり教鞭を執り、読書教育の第一人者として豊富な知識と経験を活かし、適切な指導・助言を与えた。この間、地方教育行政の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

元市原市教育委員会委員 船 山 慶 子

平成 25 年、市原市教育委員会委員に就任し、12 年間務めた。特に社会教育の分野に造詣が深く、卓越した見識と豊富な経験を活かし、コミュニティ・スクールの導入、推進や社会教育施設を含む複合施設の整備計画等に適切な指導・助言を与えた。また、教育委員の立場から、市原市総合計画審議会委員として、市の重要施策の推進に取り組んだ。この間、地方教育行政の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県教育庁教育次長 細 川 義 浩

平成 2 年、千葉県立八千代西高等学校教諭。船橋北高等学校教諭、県土整備部道路環境課主査、教育庁教職員課管理主事、鎌ヶ谷市立第二中学校教頭、教育庁教職員課主席管理主事、同管理室長を経て、令和 2 年、船橋啓明高等学校長。その後、教育庁学習指導課 ICT 教育推進担当課長、同県立高校統括監を歴任し、令和 7 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県教育庁企画管理部長 原 義 明

昭和 63 年、千葉県立関宿高等学校教諭。柏市立柏高等学校教諭、柏陵高等学校教諭、教育庁教職員課管理主事、同教育総務課副主幹、流山市立南部中学校教頭、教育庁教職員課主席管理主事、同人事室長を経て、平成 31 年、市川東高等学校長。その後、教育庁企画管理部副参事、同教職員課長、同教育総務課長、同学校危機管理監を歴任し、令和 7 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立中央図書館長 赤 沼 知 里

平成2年、千葉県立中央図書館司書。西部図書館司書、衛生短期大学副主査、同主査、中央図書館司書、同上席司書、同主任上席司書、西部図書館読書推進課長、議会事務局図書課図書班長、中央図書館副館長、西部図書館副館長を経て、令和5年、西部図書館長。その後、中央図書館副館長となり、令和7年から現職。この間、県立図書館機能の向上及び教育行政に実績を上げ、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

2 学校保健の部

船橋市立芝山西小学校学校医 矢 島 壽 夫

昭和 61 年、船橋市立高根中学校の学校医に就任。以来、現在に至るまで、同市立芝山東小学校等、同市内複数校の学校医として、児童生徒の健康診断や健康相談、学校内の衛生環境などの学校保健全般にわたり指導・助言を行い、健康保持増進に積極的に取り組んだ。本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

船橋市立市場小学校学校医 青 山 賀 茂

昭和 60 年、船橋市立市場小学校の学校医に就任。以来、現在に至るまで、同市立船橋高等学校の学校医として、児童生徒の健康診断や健康相談、学校内の衛生環境などの学校保健全般にわたり指導・助言を行い、健康保持増進に積極的に取り組んだ。また、船橋市医師会理事を務め、会員に学校保健の重要性を説くなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

市川市立行徳小学校学校医 渡 辺 邦 彦

昭和 50 年、市川市立新浜小学校の学校医に就任。以来、現在に至るまで、同市立富美浜小学校等、同市内複数校の学校医・園医として、園児児童生徒の健康診断や健康相談、学校内・園内の衛生環境などの学校保健全般にわたり指導・助言を行い、健康保持増進に積極的に取り組んだ。本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

銚子市立清水小学校学校医 間 山 春 樹

昭和 54 年、銚子市立清水小学校等の学校医に就任。以来、現在に至るまで、同市立第一中学校等、同市内複数校及び千葉県銚子水産高等学校の学校医・園医として、園児児童生徒の健康診断や健康相談、学校内・園内の衛生環境などの学校保健全般にわたり指導・助言を行い、健康保持増進に積極的に取り組んだ。また、銚子市医師会理事、副会長、会長を歴任し、会員に学校保健の重要性を説くなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

茂原市立東郷小学校学校医 清 水 三 郎

昭和 62 年、茂原市立東郷小学校の学校医に就任。以来、現在に至るまで、同市立東中学校、新茂原幼稚園の学校医・園医として、園児児童生徒の健康診断や健康相談、学校内・園内の衛生環境などの学校保健全般にわたり指導・助言を行い、健康保持増進に積極的に取り組んだ。また、茂原市長生郡医師会理事を務め、会員に学校保健の重要性を説くなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉市立轟町小学校学校医 茂手木 直 忠

昭和 57 年、千葉市立轟町小学校の学校医に就任。以来、現在に至るまで、同市立あやめ台小学校等、同市内複数校の学校医として、児童生徒の健康診断や健康相談、学校内の衛生環境などの学校保健全般にわたり指導・助言を行い、健康保持増進に積極的に取り組んだ。また、千葉市医師会理事を務め、会員に学校保健の重要性を説くなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉市立稲毛中学校学校医 小 林 佐恵子

昭和 54 年、千葉市立稲毛小学校等の学校医に就任。以来、現在に至るまで、同市立稲毛第二小学校等、同市内複数校の学校医として、児童生徒の健康診断や健康相談、学校内の衛生環境などの学校保健全般にわたり指導・助言を行い、健康保持増進に積極的に取り組んだ。本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立犢橋高等学校学校歯科医 地 主 明 弘

昭和 61 年、千葉県立犢橋高等学校の学校歯科医に就任。以来、現在に至るまで、千葉市立千城台東小学校、同市立作新小学校の学校歯科医として、定期歯科健康診断を行うなど、児童生徒の健康保持増進に積極的に取り組んだ。また、社団法人千葉市歯科医師会理事として、会員に学校保健の重要性を説き後進の育成をするなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立我孫子東高等学校学校歯科医 五 井 周

昭和 62 年、我孫子市立湖北台中学校等の学校歯科医に就任。以来、現在に至るまで、同市立湖北中学校等、同市内複数校及び千葉県立布佐高等学校等の学校歯科医として、定期歯科健康診断を行うなど、児童生徒の健康保持増進に積極的に取り組んだ。また、社団法人我孫子市歯科医師会理事、一般社団法人我孫子市歯科医師会理事として、会員に学校保健の重要性を説き後進の育成をするなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立千葉特別支援学校学校歯科医 岡 崎 伸 夫

平成 3 年、千葉県立千葉特別支援学校の学校歯科医に就任。以来、現在に至るまで、千葉市立有吉小学校、同市立小中台小学校の学校歯科医として、定期歯科健康診断や歯科相談・口腔衛生指導を行うなど、児童生徒の健康保持増進に積極的に取り組んだ。特に学校保健の重要性を認識し事業に取り組むなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

松戸市立幸谷小学校学校歯科医 藤 内 圭 一

昭和 58 年、松戸市立幸谷小学校の学校歯科医に就任。以来、現在に至るまで、同市立殿平賀小学校、千葉県立松戸国際高等学校の学校歯科医として、定期歯科健康診断を行うなど、児童生徒の健康保持増進に積極的に取り組んだ。また、社団法人松戸歯科医師会理事、公益社団法人松戸歯科医師会専務理事、副会長、会長を歴任し、会員に学校保健の重要性を説き後進の育成をするなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

成田市立中台小学校学校歯科医 池 田 信 子

昭和 57 年、成田市立中台小学校の学校歯科医に就任。以来、現在に至るまで、千葉県立成田国際高等学校の学校歯科医として、定期歯科健康診断や歯科相談・口腔衛生指導を行うなど、児童生徒の健康保持増進に積極的に取り組んだ。特に学校保健の重要性を認識し事業に取り組むなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

旭市立三川小学校学校歯科医 岡 田 英 一

昭和 58 年、旭市立三川小学校（旧飯岡町立三川小学校）の学校歯科医に就任。以来、現在に至るまで、同市立飯岡小学校、飯岡中学校の学校歯科医として、定期歯科健康診断を行うなど、児童生徒の健康保持増進に積極的に取り組んだ。また、社団法人海上郡市歯科医師会理事、専務理事、副会長、会長を歴任し、会員に学校保健の重要性を説き後進の育成をするなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

山武市立南郷小学校学校歯科医 堀 角 達 朗

平成 4 年、山武市立大富小学校（旧成東町立大富小学校）等の学校歯科医に就任。以来、現在に至るまで、同市立山武望洋中学校、千葉県立成東高等学校等の学校歯科医として、定期歯科健康診断を行うなど、児童生徒の健康保持増進に積極的に取り組んだ。また、社団法人山武郡市歯科医師会理事、一般社団法人山武郡市歯科医師会理事、副会長として、会員に学校保健の重要性を説き後進の育成をするなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

元千葉市立第二養護学校学校薬剤師 高 梨 光 子

昭和 59 年、千葉市立第二養護学校等の学校薬剤師に就任。以来、現在に至るまで、同市立都賀小学校、千葉県立千葉女子高等学校の学校薬剤師として、卓越した知識と優れた技術を持ってその結果に基づき、長きにわたり児童生徒のために指導・助言を行うなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

3 芸術文化の部

(1) 個人の部

千葉県美術会常任理事 入来院 紀 子

武蔵野美術大学大学院において日本画を学ぶ。千葉県美術展覧会（県展）を中心に作品を発表し、県展では、平成 20 年に知事賞、同 22 年に県展賞を受賞。平成 23 年以降は県展日本画部門の審査員を務める。こうした事績から、平成 26 年から千葉県美術会理事を、令和 2 年から常任理事を務め、県展及び県美術会の発展や後進の指導育成に尽力するなど、日本画を通じて本県文化芸術の振興に寄与した功績は大である。

千葉県芸術舞踊協会副会長 小仲井 宏 美

平成 11 年に千葉県芸術舞踊協会理事に就任後、24 年間にわたり同協会の運営に携わり、令和 5 年より副会長を務める。研修やコンクールの開催などの各種事業を実施し、県内舞踊家の親睦融和と技術向上、新人の育成に尽力した。また、県が主催する千葉・県民文化祭への参加事業としてバレエの公演会を開催し、舞踊の魅力を県民に伝える活動に尽力するなど、本県文化芸術の振興に寄与した功績は大である。

千葉県詩人クラブ会長 秋 元 炯

平成 20 年に千葉県詩人クラブの理事に就任後、理事長を経て、令和 4 年より会長を務める。詩の合評や朗読を行う研究会の開催、会報の発行等により、会員相互の親睦と詩人の技術向上、現代詩の普及に尽力した。また、県が主催する千葉・県民文化祭中央行事への参加や、「ちば秋の詩祭」の開催、詩集の制作に精力的に携わるなど、詩を通じて本県文化芸術の振興に寄与した功績は大である。

元千葉県文化財保護審議会委員 佐 野 みどり

日本美術史を専門とし、平成 26 年度から令和 5 年度まで千葉県文化財保護審議会委員を務めた。主に有形文化財（絵画）の分野において重要な提言を行い、県立美術館が所蔵する石井林響筆「木華開耶媛」、「和気清麿」や千葉市の金光院が所蔵する「絹本著色両界曼荼羅」等の有形文化財の指定に多大な貢献があった。また、県内各地の文化財調査も数多く実施し、絵画について専門的な見地からの的確な助言を行うなど、本県文化財の保護に寄与した功績は大である。

千葉県文化財保護指導委員 櫻 井 公 子

平成 22 年、千葉県文化財保護指導委員に就任し、現在に至る。大多喜町内、袖ヶ浦市内に所在する国指定文化財や埋蔵文化財包蔵地の巡視活動に従事し、文化財の保護に尽力してきた。中近世の埋蔵文化財や郷土史に造詣が深く、15 年の長きにわたって継続して精力的に従事し、本県文化財の保護に寄与した功績は大である。

千葉県指定有形文化財所有者 佐藤 晴 朗

平成5年、千葉県指定有形文化財（建造物）「佐藤家住宅」（昭和59年2月24日指定）の所有者となり、現在に至る。佐藤家住宅は、佐倉藩の藩士が居住した侍屋敷町である佐倉市中尾余町に所在し、江戸時代後期の建築と推定される武家住宅で、外観及び内部の意匠に建築当初の姿を良好に残している。31年の長きにわたり、先代から引き継いだ文化財の保存・活用に尽力し、文化財所有者として、本県文化財の保護に寄与した功績は大である。

白井市文化財審議会委員 横山 謙 次

平成9年、白井市文化財審議会委員に就任し、現在に至る。この間、平成23年から5年間、同会会長を務めた。また、平成19年から16年間、印西市文化財審議会委員を務めた。古文書修補師としての専門的な見地から、主に有形文化財の分野において重要な提言を行うとともに、千葉県指定有形文化財「天正検地帳」や東日本大震災の被災資料等、県内外の多くの古文書修補に携わった。修補講座の講師として文化財ボランティアの育成にも貢献しており、本県文化財の保護に寄与した功績は大である。

(2) 団体の部

子ども劇場千葉県センター

昭和 63 年に千葉県子ども劇場おやこ劇場協議会として発足。平成 10 年に子ども劇場千葉県センターに改組、平成 11 年に特定非営利活動法人設立。病院・児童福祉施設に入所している子供たちを対象としたワークショップや、千葉県内の小学校・特別支援学校に芸術家を派遣し講演・実演を行う「芸術家の派遣事業」の実施を通じ、子供たちが文化芸術に触れることのできる環境づくりに尽力した。また、平成 9 年には千葉県芸術文化団体協議会に加盟し、本県文化芸術の振興に寄与した功績は大である。

東金市郷土研究愛好会

昭和 61 年の設立以来、39 年の長きにわたり東金の郷土史研究を継続し、会員の研究発表や研修旅行、外部講師による講演会の開催、東金文化会館常設展示室を会場とする企画展示、周辺地域の歴史研究会等との交流などを積極的に行ってきた。平成 5 年には『もしももう半年戦争が続いたらー本土決戦下の東金ー』を刊行したほか、平成 18 年から続く企画展示では、東金市の歴史文化を語る上で重要な御成街道や東金市出身の医師であった関寛斎等を取り上げた。現在でも活発な研究活動を行っており、本県文化財の保護に寄与した功績は大である。

椎津伝統行事保存会

千葉県指定無形民俗文化財「椎津のカラダミ」は、市原市椎津に伝わる盆行事である。万燈供養やカラダミ行列等の一連の行事には、新盆の供養、悲運の城主（戦国期の椎津城主、椎津小太郎）の鎮魂、水難死者の慰霊、疫病流行の防除等、さまざまな意味が込められており、他に類例のない貴重な民俗文化財である。椎津伝統行事保存会は、平成 19 年に「椎津のカラダミ」が文化財指定された際の伝承団体「椎津青年会」が平成 28 年に名称変更したもので、指定以来、行事の伝統を引き継いできた。現在も 30 名の会員が活発に活動しており、文化財伝承団体として、本県文化財の保護に寄与した功績は大である。

4 社会教育の部

(1) 個人の部

前千葉県PTA連絡協議会会長 木 村 得 道

平成25年度の千葉県PTA連絡協議会理事を皮切りに、平成29年度には、本部役員の書記の役職に就き、その後も本部役員の監事、副会長、会長を歴任。会長就任後は、日本PTA全国協議会との関係性から難題となった退会問題に対してリーダーシップを発揮し取り組んだ。そして、退会決定以前より、県内の更なる盤石な組織づくりのために、本部役員を中心に各郡市選出の理事へと働きかけ、事業計画の改革を推し進め、協議会全体のスリム化を図るなど、本県社会教育の進展に寄与した功績は大である。

ボーイスカウト千葉県連盟維持財団事務局長 南 正 晃

昭和63年から隊指導者としてスカウトの指導支援にあたり、平成16年からは団指導者として団運営を担い青少年健全育成に貢献した。同時に平成8年から令和5年まで印旛地区コミッショナー、地区副コミッショナー、団担当コミッショナーとして地区内指導者の資質向上に貢献した。県カブラリー、千葉県キャンポリー、日本ジャンポリー、世界ジャンポリー等、各種大会スタッフとして事業の推進に寄与した。県連盟においては、平成20年から平成25年まで学識経験者理事健康安全担当として、本県社会教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県ユネスコ連絡協議会副会長 森 久

平成21年に富里ユネスコ協会副会長に就任して以来、17年にわたりユネスコ活動に尽力した。富里ユネスコ協会会長、印旛地区ユネスコ協会連盟会長、千葉県ユネスコ連絡協議会理事を経て令和5年より千葉県ユネスコ連絡協議会副会長に就任。この間、青少年健全育成、世界平和、識字教育の進展、国際交流等を推進し、青少年にユネスコの理念である「心の中に平和の砦を築く」の精神を伝え続けるなど、青少年の健全育成及び本県社会教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県視聴覚ライブラリー連絡協議会理事長 小 安 和 美

平成29年、山武郡市視聴覚教材センター事務局長と千葉県視聴覚ライブラリー連絡協議会事務局長に就任。同31年、千葉県視聴覚ライブラリー連絡協議会理事長に就任。この間、地域の視聴覚教育進展に寄与するだけでなく、県内視聴覚ライブラリーの運営を補佐し、特に、千葉県メディアコンクールや千葉県視聴覚メディア研究大会の運営、視聴覚担当者育成研修など、視聴覚教育の振興に尽力し、本県社会教育の進展に寄与した功績は大である。

大網白里市子ども会育成連絡協議会会長 八 角 榮 子

平成5年、大網白里市子ども会育成連絡協議会役員に就任し、同14年から同会会長に就任。以来、現在に至るまで大網白里市の子ども会の発展に努めてきた。また、現在までの22年間、社会教育委員を、平成25年及び令和6年から現在まで生涯学習推進計画策定委員を務めている。この間、市社会教育行政に実績をあげ、さまざまな体験活動を通して子供たちの成長に尽力し、本県社会教育の進展に寄与した功績は大である。

(2) 団体の部

旭市図書館

昭和 38 年 12 月に開館。様々なイベントを展開し、幅広い世代に向けた読書活動の推進に力を入れている。児童向けに、図書館司書によるおはなしの時間（絵本の読み聞かせ）、読書感想文の書き方講座、工作教室、ブックスタート事業を実施しているほか、成人向けに「大人のための朗読会」を実施している。併せて、小中学校・保育所への要望図書の配送サービスやブックリストの配布、読書ボランティア養成のための講座の開催等、読書環境の整備にも取り組んでいる。地域と連携した多彩な活動を行っており、旭市並びに本県社会教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉市土気公民館

昭和 30 年、山武郡土気町土気小学校講堂公民館として開館し、昭和 44 年、千葉市土気公民館となる。令和元年度、さわやかちば県民プラザ主催「第 1 回講座アワード」にて、「土気からし菜漬物教室」が入選。また、令和 3 年度では、コロナ禍のなかで公民館と高齢施設をオンラインで繋ぐ「ふれあい届け隊」が大賞を受賞。箏・尺八サークルによる演奏を小学校の音楽の授業に向けて生配信するなど、他館に先駆けたオンライン事業に積極的に取り組んでいる。令和 6 年には「子ども館長プロジェクト」等、先進的なアイデアで他館の模範になるなど、千葉市並びに本県社会教育に進展した功績は大である。

5 学校教育の部

(1) 個人の部

ア 県立学校

千葉県立千葉高等学校長 高 梨 祐 介

平成6年、千葉県立茂原工業高等学校教諭。市原高等学校教諭、千葉東高等学校教諭、県総合教育センター指導主事、教育庁指導課指導主事、同教職員課管理主事、京葉高等学校教頭、教育庁学校安全保健課指導主事、同安全室主幹、同安全室長、教育庁学習指導課高等学校指導室長を経て、令和4年、千葉東高等学校長。その後、令和6年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、理科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立千葉商業高等学校長 鈴 木 栄 次

昭和63年、千葉県立木更津東高等学校教諭。君津商業高等学校教諭、県土整備部建設・不動産業課主査、千葉商業高等学校教諭、教育庁教職員課管理主事、同県立学校改革推進課副主幹、船橋夏見特別支援学校教頭、教育庁特別支援教育課指導主事、同教育政策課主幹を経て、令和3年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、商業科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立一宮商業高等学校長 森 豊 巳

平成元年、千葉県立白里高等学校教諭。千葉商業高等学校教諭、鶴舞桜が丘高等学校教諭、一宮商業高等学校教諭、東金商業高等学校教頭、八街高等学校教頭を経て、令和3年、君津商業高等学校長。その後、令和6年から現職。この間、学校経営に実績を上げ、特に、商業科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立印旛特別支援学校長 山 崎 博 志

平成3年、千葉県立香取養護学校実習助手。同校教諭、富里養護学校教諭、千葉県障害者高等技術専門校主査、我孫子特別支援学校教諭、富里特別支援学校教頭、教育庁教職員課管理主事を経て、令和2年、八日市場特別支援学校長。その後、県子どもと親のサポートセンター次長となり、令和5年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、特別支援教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立八日市場特別支援学校長 小 林 一 仁

平成元年、千葉県立四街道養護学校教諭。匝瑳郡野栄町立野栄中学校教諭、銚子養護学校教諭、千葉県障害者高等技術専門校主査、千葉大学教育学部附属特別支援学校教諭、大網白里特別支援学校教頭、富里特別支援学校教頭、千葉聾学校副校長を経て、令和3年、印旛特別支援学校長。その後、県子どもと親のサポートセンター次長となり、令和6年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、特別支援教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立長生特別支援学校長 杉 村 哲

平成元年、千葉県立袖ヶ浦養護学校教諭。桜が丘養護学校教諭、東金市立東小学校教諭、千葉盲学校教諭、教育庁生涯学習課副主幹、山武市立山武北小学校教頭、教育庁教職員課管理主事、同人事室特別支援学校人事班長を経て、令和3年、千葉特別支援学校長。その後、教育庁特別支援教育課長となり、令和6年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、特別支援教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立幕張総合高等学校事務主幹 岩 崎 智 代

昭和59年、千葉県立千葉東高等学校主事。柏井高等学校主事、船橋高等学校主事、同主任主事、千葉商業高等学校主任主事、同副主査、検見川高等学校副主査、千葉高等学校副主査、布佐高等学校副主査、千葉商業高等学校主査、千葉工業高等学校主査を経て、平成30年、船橋二和高等学校事務長。その後、市川工業高等学校事務長となり、令和6年から現職。この間、よく校長を補佐し、円滑な学校事務の運営に努め、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

イ 市町村立学校

習志野市立津田沼小学校長 宮 崎 晶 子

昭和 63 年、習志野市立東習志野小学校教諭。管内小学校教諭、習志野市教育委員会学校教育課管理主事、習志野市立谷津小学校教頭、教育庁教育政策課副主幹、同教育立県推進室推進班長を経て、平成 30 年、習志野市立谷津南小学校長。その後、教育庁教育政策課教育立県推進室長、教育庁北総教育事務所長を歴任し、令和 6 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、体育科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

習志野市立谷津小学校長 杉 山 健 一

平成元年、香取郡東庄町立神代小学校教諭。県内小学校教諭、教育庁教育政策課副主幹、習志野市立東習志野小学校教頭、習志野市立袖ヶ浦東小学校教頭、習志野市教育委員会指導課主任指導主事、同指導課長を経て、令和 3 年、習志野市立袖ヶ浦東小学校長。その後、習志野市教育委員会学校教育部次長となり、令和 6 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、社会科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

八千代市立八千代台小学校長 矢 浦 智 子

昭和 63 年、八千代市立八千代台小学校教諭。管内小学校教諭、八千代市立新木戸小学校教頭、県総合教育センター研究指導主事、教育庁学習指導課指導主事を経て、平成 31 年、八千代市立勝田台南小学校長。その後、教育庁葛南教育事務所主席指導主事となり、令和 5 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、音楽科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

市川市立八幡小学校長 山 村 雅 彦

昭和 63 年、香取郡大栄町立津富浦小学校教諭。県内小学校教諭、市川市教育委員会指導課副主幹、文部科学省初等中等教育局専門職、市川市立新井小学校教頭、市川市教育委員会教育総務課主幹を経て、平成 31 年、市川市立中国分小学校長。その後、教育庁葛南教育事務所主席指導主事、同指導室長を歴任し、令和 6 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、算数・数学科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

柏市立柏第一小学校長 三 浦 邦 彦

平成 2 年、柏市立十余二小学校教諭。管内小学校教諭、千葉県商工労働部経済政策課主査、柏市教育委員会指導課指導主事、柏市立光ヶ丘小学校教頭、柏市教育委員会教育研究所統括リーダー、同教職員課統括リーダー、同教職員課副参事を経て、平成 31 年、柏市立土小学校長。その後、柏市教育委員会教職員課長、同学校教育部長を歴任し、令和 6 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、体育科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

野田市立清水台小学校長 縄 田 浩 子

昭和 63 年、東葛飾郡関宿町立中央小学校教諭。管内小学校教諭、野田市教育委員会指導課指導主事、野田市立柳沢小学校教頭、教育庁東葛飾教育事務所指導主事を経て、平成 29 年、野田市立福田第二小学校長。その後、野田市立岩木小学校長となり、令和 6 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、道德教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

野田市立柳沢小学校長 遠 藤 恵美子

平成 3 年、野田市立川間小学校教諭。管内小学校教諭、野田市教育委員会指導課指導主事、野田市立柳沢小学校教頭、教育庁東葛飾教育事務所指導主事を経て、平成 31 年、野田市立関宿小学校長。その後、教育庁東葛飾教育事務所指導室長、同次長を歴任し、令和 5 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、国語科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

佐倉市立佐倉小学校長 小 川 英 昭

昭和 63 年、佐倉市立佐倉小学校教諭。県内小学校教諭、佐倉市教育センター指導主事、佐倉市立根郷小学校教頭、教育庁北総教育事務所管理主事を経て、平成 29 年、佐倉市立南志津小学校長。その後、富里市教育委員会学校教育課長、同参事、教育庁北総教育事務所管理課長、同次長を歴任し、令和 6 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、社会科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

成田市立平成小学校長 根 本 達 也

平成 2 年、成田市立玉造小学校教諭。管内小学校教諭、成田市立平成小学校教頭、教育庁指導課指導主事を経て、平成 29 年、成田市立橋賀台小学校長。その後、成田市立八生小学校長、教育庁北総教育事務所主席指導主事を歴任し、令和 6 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、理科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

成田市立公津の杜小学校長 葉 山 憲 一

平成 2 年、成田市立成田中学校教諭。管内中学校教諭、独立行政法人国立青少年教育振興機構国立妙高青少年自然の家事業推進課主任企画指導専門職、成田市立大栄中学校教頭、教育庁北総教育事務所社会教育主事を経て、平成 29 年、富里市立富里南中学校長。その後、成田市教育委員会教育指導課長、成田市教育委員会学務課長を歴任し、令和 4 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、社会科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

香取市立小見川中央小学校長 久保木 靖

昭和 63 年、香取郡多古町立多古中学校教諭。管内中学校教諭、香取郡多古町立多古中学校教頭、教育庁福利課副主幹を経て、平成 31 年、成田市立三里塚小学校長。その後、教育庁北総教育事務所主席指導主事、同香取分室長を歴任し、令和 6 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、算数・数学科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

神崎町立神崎小学校長 塙 一成

昭和 63 年、香取郡下総町立滑河小学校教諭。コロンボ日本人学校教諭、県内小学校教諭、香取市立北佐原小学校教頭、教育庁北総教育事務所管理主事を経て、平成 30 年、香取市立東大戸小学校長。その後、教育庁北総教育事務所主席管理主事、同香取分室長を歴任し、令和 5 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、理科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

東金市立城西小学校長 伊藤 英希

昭和 63 年、山武郡成東町立成東小学校教諭。管内小学校教諭、東金市立東小学校教頭、東金市教育委員会学校教育課主幹、県総合教育センター研究指導主事、国立大学法人千葉大学教育学部附属教員養成開発センター准教授を経て、令和 3 年、東金市立福岡小学校長。その後、教育庁東上総教育事務所山武分室長となり、令和 6 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、理科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

東金市立福岡小学校長 行川 永

平成元年、千葉県立東金養護学校寮母。管内中学校教諭、教育庁文化課文化財主事、大網白里市立増穂北小学校教頭、教育庁指導課指導主事、同学校安全保健課指導主事を経て、平成 30 年、いすみ市立浪花小学校校長。その後、芝山町教育委員会学校教育担当課長となり、令和 5 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、社会科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

大網白里市立大網小学校長 竹内 千博

平成元年、山武郡芝山町立芝山小学校教諭。管内小学校教諭、東金市立鵜嶺小学校教頭、教育庁東上総教育事務所管理主事を経て、平成 30 年、東金市立日吉台小学校長。その後、教育庁学校安全保健課主席指導主事、教育庁東上総教育事務所管理課長、同次長、教育庁葛南教育事務所長を歴任し、令和 6 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、体育科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

九十九里町立片貝小学校校長 田 代 純 一

平成元年、香取郡東庄町立笹川小学校教諭。県内小学校教諭、東金市立鴫嶺小学校教頭、教育庁体育課指導主事を経て、令和2年、東金市立正気小学校長。その後、教育庁保健体育課副課長となり、令和6年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、体育科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

九十九里町立豊海小学校校長 武 藤 孝 之

平成2年、山武郡山武町立睦岡小学校教諭。管内小学校教諭、九十九里町教育委員会社会教育係長、九十九里町立九十九里小学校教頭、教育庁学校安全保健課指導主事を経て、令和2年、芝山町立芝山小学校長。その後、教育庁東上総教育事務所主席指導主事となり、令和5年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、生徒指導の充実に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

茂原市立萩原小学校校長 内 田 美 之

昭和63年、匝瑳郡光町立白浜小学校教諭。県内小・中学校教諭、白子町立南白亀小学校教頭、教育庁東上総教育事務所管理主事を経て、平成29年、茂原市立新治小学校長。その後、教育庁東上総教育事務所主席管理主事、同管理課長、同次長、教育庁南房総教育事務所長を歴任し、令和6年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、社会科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

大多喜町立大多喜小学校校長 西 川 敏 幸

平成元年、山武郡大網白里町立大網中学校教諭。管内中学校教諭、勝浦市立総野小学校教頭、教育庁学習指導課指導主事を経て、令和4年、いすみ市立夷隅小学校長。その後、令和6年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、理科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

館山市立北条小学校校長 石 川 康 浩

平成元年、館山市立北条小学校教諭。管内小学校教諭、県総合教育センター指導主事、教育庁指導課指導主事、鴨川市立西条小学校教頭、県総合教育センター研究指導主事、教育庁指導課指導主事を経て、平成30年、館山市立房南小学校長。その後、教育庁学習指導課主席指導主事、同主幹、同課長を歴任し、令和6年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、算数科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

南房総市立千倉小学校長 義 道 俊 文

平成2年、安房郡千倉町立朝夷小学校教諭。管内小学校教諭、南房総市立健田小学校教頭、南房総市立千倉小学校教頭、教育庁生涯学習課副主幹を経て、令和2年、鴨川市立鴨川小学校長。その後、令和4年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、道德教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

鋸南町立鋸南小学校長 菊 間 俊 徳

平成2年、館山市立館山小学校教諭。管内小学校教諭、館山市教育委員会学校教育課指導主事、館山市立北条小学校教頭、教育庁特別支援教育課指導主事を経て、令和2年、館山市立那古小学校長。その後、令和5年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、理科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

木更津市立富来田小学校長 遠 藤 秀 夫

平成2年、君津市立周西中学校教諭。管内中学校教諭、富津市立天羽中学校教頭、教育庁南房総教育事務所指導主事を経て、令和2年、木更津市立岩根中学校長。その後、教育庁南房総教育事務所主席指導主事、同指導室長を歴任し、令和6年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、算数・数学科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉市立新宿小学校長 八 斗 孝 之

平成元年、千葉市立こてはし台小学校教諭。千葉市内小学校教諭、千葉市立都賀小学校教頭、千葉市教育委員会生涯学習振興課担当課長補佐、同管理主事を経て、平成30年、千葉市立瑞穂小学校長。その後、千葉市教育委員会生涯学習振興課統括管理主事、同教育指導課統括指導主事、同課長を歴任し、令和7年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、算数科教育の振興に尽力し、本県教育の振興に寄与した功績は大である。

船橋市立葛飾中学校長 茂 木 義 久

平成元年、船橋市立古和釜中学校教諭。管内中学校教諭、船橋市教育委員会青少年センター副主査、同保健体育課副主査、同指導課副主査、教育庁教職員課管理主事、船橋市立御滝中学校教頭、教育庁学校安全保健課指導主事を経て、平成29年、船橋市立大穴中学校長。その後、教育庁学校安全保健課保健班長、同安全室主幹、船橋市教育委員会指導課主幹、同課長を歴任し、令和6年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、生徒指導の充実に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

我孫子市立我孫子中学校長 鈴木 与志実

昭和 63 年、我孫子市立白山中学校教諭。県内小中学校教諭、我孫子市教育委員会指導課指導主事、教育庁教職員課管理主事、我孫子市立湖北台中学校教頭、我孫子市教育委員会指導課長補佐、同学校教育課長補佐を経て、平成 30 年、我孫子市立我孫子第三小学校長。その後、我孫子市教育委員会学校教育課長、同教育総務部次長を歴任し、令和 4 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、理科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

鎌ケ谷市立鎌ケ谷中学校長 鉄 井 修 一

平成 2 年、鎌ケ谷市立第四中学校教諭。管内中学校教諭、鎌ケ谷市教育委員会学校教育課指導主事、鎌ケ谷市立西部小学校教頭、教育庁東葛飾教育事務所管理主事、教育庁教職員課管理主事、同主席管理主事を経て、平成 30 年、鎌ケ谷市立第三中学校長。その後、教育庁生涯学習課社会教育振興室長、教育庁東上総教育事務所長、県総合教育センター所長を歴任し、令和 6 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、社会科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

鎌ケ谷市立第五中学校長 高 木 秀 人

昭和 63 年、野田市立川間中学校教諭。県内中学校教諭、鎌ケ谷市教育委員会学校教育課指導主事、鎌ケ谷市立中部小学校教頭、教育庁東葛飾教育事務所指導主事を経て、平成 30 年、鎌ケ谷市立鎌ケ谷小学校長。その後、鎌ケ谷市教育委員会生涯学習部副参事、教育庁東葛飾教育事務所主席指導主事、同指導室長、鎌ケ谷市教育委員会学校教育課長を歴任し、令和 6 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、社会科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

四街道市立四街道西中学校長 金 森 健 人

平成元年、千葉市立養護学校教諭。県内中学校教諭、千葉県生実学校児童自立支援専門員、四街道市立四街道北中学校教諭、佐倉市立臼井南中学校教頭、教育庁北総教育事務所指導主事、同管理主事を経て、平成 30 年、栄町立栄中学校長。その後、四街道市立四街道北中学校長、教育庁北総教育事務所指導室長を歴任し、令和 6 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、社会科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

香取市立佐原中学校長 岡 野 健一郎

昭和 63 年、佐原市立新島中学校教諭。管内中学校教諭、教育庁生涯学習課社会教育主事、香取市立小見川北小学校教頭、香取市教育委員会指導主事を経て、平成 30 年、香取市立八都第二小学校長。その後、香取市教育委員会学校教育課長となり、令和 4 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、理科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

旭市立第二中学校長 齊 藤 実

平成元年、銚子市立第八中学校教諭。管内中学校教諭、匝瑳市立平和小学校教頭、教育庁北総教育事務所管理主事を経て、平成 30 年、旭市立干潟中学校長。その後、旭市教育委員会教育総務課学校教育指導室長となり、令和 5 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、数学科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

横芝光町立横芝中学校長 行 木 邦 光

平成元年、印旛郡富里町立富里北中学校教諭。県内中学校教諭、教育庁東上総教育事務所社会教育主事、横芝光町教育委員会社会文化課社会教育主事、横芝光町立東陽小学校教頭、教育庁東上総教育事務所指導主事を経て、平成 31 年、横芝光町立光中学校長。その後、教育庁東上総教育事務所主席社会教育主事、同指導室長を歴任し、令和 5 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、保健体育科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

茂原市立南中学校長 吉 野 広 隆

昭和 63 年、印旛郡白井町立大山口中学校教諭。県内中学校教諭、教育庁学校安全保健課指導主事、睦沢町立睦沢中学校教頭、白子町教育委員会教育課長を経て、令和 2 年、大網白里市立増穂小学校長。その後、教育庁東上総教育事務所主席指導主事、同指導室長を歴任し、令和 6 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、社会科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

館山市立館山中学校長 神 子 純 一

平成元年、安房郡富山町立岩井小学校教諭。管内小学校教諭、館山市立北条小学校教頭、教育庁南房総教育事務所管理主事、教育庁福利課副主幹、同教育総務課副主幹を経て、平成 29 年、南房総市立南三原小学校長。その後、教育庁教育総務課主幹、教育庁葛南教育事務所長、県総合教育センター所長を歴任し、令和 5 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、保健体育科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

館山市立房南中学校長 土 橋 純 也

平成元年、安房郡千倉町立千倉中学校教諭。県内中学校教諭、館山市立神余小学校教頭、教育庁南房総教育事務所指導主事を経て、令和 4 年、館山市立九重小学校長。その後、令和 6 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、社会科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

鴨川市立鴨川中学校長 渡 邊 弘 仁

昭和 63 年、香取郡小見川町立中央小学校教諭。県内中学校教諭、鴨川市教育委員会学校教育課指導主事、県総合教育センター指導主事、同研究指導主事、鴨川市立鴨川中学校教頭、教育庁南房総教育事務所管理主事、鴨川市教育委員会学校教育課主任管理主事を経て、平成 29 年、鴨川市立長狭中学校長。その後、鴨川市教育委員会学校教育課長、教育庁南房総教育事務所主席管理主事、同管理課長、同次長を歴任し、令和 5 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、技術科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

南房総市立嶺南中学校長 安 田 道 明

平成 2 年、安房郡鋸南町立第一中学校教諭。管内中学校教諭、教育庁指導課指導主事、南房総市立和田中学校教頭、南房総市立嶺南中学校教頭、南房総市教育委員会子ども教育課主任管理主事を経て、平成 31 年、南房総市立白浜中学校長。その後、南房総市教育委員会参事となり、令和 5 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、理科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

木更津市立畑沢中学校長 吉 岡 秀 樹

平成 2 年、君津郡袖ヶ浦町立蔵波中学校教諭。管内中学校教諭、富津市立富津小学校教頭、県子どもと親のサポートセンター研究指導主事を経て、令和 3 年、木更津市立木更津第三中学校長。その後、令和 5 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、算数・数学科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

袖ヶ浦市立長浦中学校長 小 泉 憲 治

平成元年、木更津市立太田中学校教諭。管内中学校教諭、習志野市教育委員会鹿野山少年自然の家指導主事、同研究指導主事、教育庁生涯学習課社会教育主事、袖ヶ浦市立奈良輪小学校教頭、教育庁生涯学習課社会教育振興室社会教育班長を経て、令和 2 年、袖ヶ浦市立奈良輪小学校長。その後、令和 6 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、社会科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

袖ヶ浦市立蔵波中学校長 井 関 徹太郎

平成元年、木更津市立富来田中学校教諭。管内中学校教諭、袖ヶ浦市教育委員会総合教育センター研究指導主事、袖ヶ浦市教育委員会学校教育課指導主事、袖ヶ浦市立平岡小学校教頭、袖ヶ浦市教育委員会学校教育課副参事を経て、平成 29 年、袖ヶ浦市立中川小学校長。その後、教育庁学習指導課主席指導主事、教育庁南房総教育事務所主席指導主事、袖ヶ浦市立根形中学校長を歴任し、令和 6 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、国語科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

市原市立国分寺台西中学校長 大 野 文 昭

平成元年、市原市立辰巳台中学校教諭。管内中学校教諭、県総合教育センター研究指導主事、千葉市立生浜小学校教頭、市原市教育委員会指導課指導主事を経て、平成 31 年、市原市立姉崎小学校長。その後、教育庁南房総教育事務所主席指導主事、同指導室長、同次長を歴任し、令和 6 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、英語科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉市立葛城中学校長 小 田 將 史

平成元年、千葉市立みつわ台中学校教諭。千葉市内中学校教諭、教育庁指導課指導主事、千葉市教育委員会指導課指導主事、千葉市立おゆみ野南中学校教頭、千葉市教育委員会指導課主任指導主事、同教育支援課主任指導主事を経て、平成 30 年、千葉市立大宮小学校長。その後、千葉市青少年サポートセンター所長、千葉市教育委員会教育支援課長を歴任し、令和 5 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、生徒指導の充実に尽力し、本県教育の振興に寄与した功績は大である。

(2) 団体の部

千葉県立木更津東高等学校

明治 43 年開校。以来、生徒一人一人の個性を伸ばす教育をしつつ、「豊かな教養」と「清純な心」、「健康美」を兼ね備えた人材の育成を目標とした教育を推進している。県立学校改革推進プランにより、キャリア教育と職業教育の充実のため、平成 27 年度に近隣の大学と教育協定を締結し、キャリア教育の充実を図り実績を上げている。平成 29 年度から 3 年間、千葉県教育委員会の「福祉教育推進校」に指定された。令和元年度には国立教育政策研究所の「実践研究協力校」の指定を受け、消費者生活を考える授業を実践した。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立香取特別支援学校

昭和 54 年開校。以来、香取地域の特別支援教育のセンターとしての役割を果たしている。平成 27 年度、令和 4・5 年度に、千葉県教育委員会から「一人一人の教育的ニーズに応じた教育課程」についての研究指定を受け、キャリア教育の視点に立った授業づくりや知的障害の系統的な教科指導の在り方について先進的な実践研究の成果を示した。また、「12 年間の系統的な教科指導による安全・安心に過ごせる力の育成」を目指した防災・安全教育で、令和 6 年度ぼうさい甲子園では「ぼうさい大賞」を受賞した。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

船橋市立峰台小学校

昭和 30 年開校。以来、学校教育目標を「やさしくすすんでやりぬく子」と定め、教育活動に邁進している。令和 3 年度に、船橋市教育委員会から 3 年間の「道徳教育」研究指定を受け、また、令和 4・5 年度は、国立教育政策研究所の「教育課程実践検証協力校」に指定され、研究主題である「豊かな心をもち、よりよく生きようとする児童の育成～児童の考えを深める道徳科の学習を通して～」の実現を目指して、学校全体で授業改善に取り組んだ。これらの研究や実践は広く還元されている。これらの教育実践は船橋市のみならず高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

鎌ヶ谷市立西部小学校

昭和 42 年開校。以来、算数・理科教育、給食指導、道徳教育など研究実績を上げている。令和 5・6 年度に千葉県教育委員会から「特色ある道徳教育推進校」の研究指定を受け、「自他を認め合い、主体的に生きる力を育成する道徳教育の推進～全校『みとめあい集会』の実施と道徳科における個別最適な学び・協働的な学びの実現を通して～」をテーマに研究を実践した。令和 6 年度には研究公開を行い、研究の成果を発表した。これらの研究や実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

山武市立松尾小学校

明治6年開校。以来、「夢と希望をもち、自分の目標に向かって生き生きと活動する児童の育成」を目指し教育活動に尽力している。令和元年度に千葉県教育委員会から「地域や関係機関と連携した防犯教育公開事業」の拠点校に指定され、授業公開・記念講演を実施した。令和3年度には令和元年度の防犯教育公開事業について東上総教育事務所管内で実践発表を行い、安全教育の推進に寄与した。令和5年度に山武市教育委員会から「学力向上推進校」に指定され、学力向上に向けた授業改善に取り組んだ。これらの教育実績は高く評価されており、本県教育の推進に寄与した功績は大である。

睦沢町立睦沢小学校

平成30年4月、町内2小学校を統合し開校。以来、町唯一の小学校として教育実践に努め、大きな成果を上げてきた。平成30年度・令和元年度に千葉県NIE推進協議会「NIE推進事業」実践校、令和4・5年度に千葉県教育委員会指定「地域における食育指導推進事業」拠点校、令和6年度に千葉県教育委員会並びに千葉県教育研究会学校給食部会「食に関する指導事業・東上総地区研究協議会」実践発表、令和6年度に千葉県教育研究会「生活科・総合的な学習教育研究協議会」授業公開と、幅広く教育活動を推進している。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉市立高浜第一小学校

昭和50年開校。以来、体育科、社会科及び国際理解教育等、様々な分野で先進的な研究を重ねている。平成29年度に千葉市教育委員会から「千葉市幼保小関連教育推進指定校」として、幼保小の望ましい連携と交流に取り組んだ。また、令和5・6年度には「国際理解教育」の研究指定を受け、多様な文化・価値観をもつ人々と共生できる子供の育成に取り組み、社会科や道徳科、日本語指導の公開研究報告会として日頃の成果を発信した。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉市立土気南小学校

昭和60年開校。以来、千葉市教育委員会から指定を受け、「ボランティア活動推進校」「地域ぐるみ教育推進」「学習評価システム構築」など地域と連携した研究や、「学習指導」に係る研究等に先進的に取り組み、平成28年度に千葉市教育功労者団体表彰を受けた。平成29・30年度には国立教育政策研究所の「実践研究協力校」として、進んで思いや考えを表現できる子供の育成に取り組んだ。令和4・5年度の千葉市教育委員会「教育課題」の研究指定では、外国語活動・外国語科や国際理解教育の指導の充実を図った。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

鎌ヶ谷市立第三中学校

昭和 50 年開校。以来、生徒指導や家庭科教育など研究実績を上げている。学校教育目標を「心豊かで、自ら学ぶ生徒」とし、社会の変化に主体的に対応できる能力の育成に努めている。令和 5・6 年度に千葉県教育委員会から「特色ある道德教育推進校」の研究指定を受け、「生徒一人ひとりが『いのち』のつながりと輝きについて深く考え、議論する道德の授業を目指して～教えて考えさせる授業（OKJ）の実践を通して～」をテーマに研究を実践した。令和 6 年度には研究公開を行い、研究の成果を発表した。これらの研究や実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

成田市立西中学校

昭和 39 年開校。令和 5 年度に文部科学省「リーディングDX事業」、令和 6 年度に同省「リーディングDX事業及び生成AIパイロット校」として指定を受けた。「個別最適な学び」と「協働的な学び」に向け、AI型ドリル教材の活用、対話型協働学習の実践に取り組んだ。また、校務DX推進の取組として、様々な共有ツールを活用して全職員の意見とアイデアを活性化し、建設的で効率の良い職場環境を整えた。実践発表会では、これまでの教育活動や校務改善への取組の成果を多くの学校に紹介し、講師や参加者からもその内容は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

いすみ市立岬中学校

昭和 22 年開校。以来、先進的な取組を積み重ね、研究実績を上げている。千葉県教育委員会から、令和元・2 年度に「第 3 期『学力・学習状況』検証事業の協力校」、令和元年度に「高等学校と連携した食育活動支援事業」への参加校として指定を受け、幅広く教育活動を推進している。令和 5 年度には「令和 7 年度千葉県学校体育研究大会分科会会場校」に決まり、以降、実践発表に向けて研究を進めている。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉市立葛城中学校

昭和 22 年開校。創造的な教育の研究や実践を積み重ね、千葉市教育のフロンティア校として、文部科学省の研究指定をいくつも受け、千葉県のみならず、全国にその成果を発信してきた。平成 26 年度には、千葉市教育委員会から「環境学習モデル校」の指定を受け幅広い活動を展開した。平成 30 年度・令和元年度には千葉市教育委員会から「キャリア教育研究指定校」として、特別活動と総合的な学習の時間を中心に研究に取り組み、生徒一人一人が、社会的・職業的自立に向けて必要となる資質・能力の育成を目指した。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉市立川戸中学校

昭和 41 年開校。以来、地域でのボランティア活動、小中連携に関する研究等、地域ぐるみ教育を推進している。平成 28・29 年度には千葉市教育委員会から「小中一貫教育」の研究指定を受け、小中の学びの連続性、系統性を意識した学習指導の研究を行った。令和 5 年度は文部科学省から「リーディング DX スクール事業」の委託を受け、小中連携を生かした ICT 活用の推進に取り組んだ。令和 6 年度は千葉市教育委員会からコミュニティ・スクールモデル校に指定され、地域と連携した学校づくりに取り組んでいる。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。